

厚生常任委員会視察研修報告書

視察地：北海道

視察先：北海道中標津町、斜里町、網走市

実施日：平成 27 年 7 月 28 日（火）～7 月 30 日（木）

旅 費：914,800 円（公費）

【視察目的】

1. 中標津町における「中標津町移住計画」について、元気で安心して暮らす視点を中心に、計画の現状と課題、今後の取り組み等について研修する。
2. 斜里町における「ポイ捨て禁止条例」について、環境保全と美化運動の視点から現状と課題等について研修する。
3. 網走市における住民主体の介護予防事業と地域包括ケア等高齢者施策について、現状と今後の取り組み等、介護保険制度改正に伴う総合事業移行への取り組みも含め研修する。

【視察内容および結果】

1. 中標津町経済部経済振興課より「中標津町移住計画」、特に移住体験「お試し暮らし」事業について説明を受けた。お試し暮らし事業は移住に関心のある方に、町内の体験住宅（10 棟）に実際に住んでもらい、町への移住や交流を促進する事業で、平成 18 年度から実施している。平成 26 年度実績で 30 組・75 人、延べ滞在日数 1,978 日。事業参加者の 3～5 割がリピーター、夏場の利用が主、半数以上が 60 歳以上などの特徴が挙げられる。
2. 斜里町総務部環境課より「ポイ捨て禁止条例」について説明を受けた。本条例は、平成 17 年に登録された知床世界自然遺産の自然景観を保全するとともに、地域の環境美化を推進するため平成 21 年度から施行している。条例の主な特徴は、空き缶や空きビンのみならず、犬・猫の糞、釣り魚と残さ、登山道等へのし尿や用便紙も対象としていること、違反者の名前の公表や罰金も科していること、町内各自治体から環境美化推進員を選出していること等が挙げられる。
3. 網走市福祉部介護福祉課より、「介護予防と地域包括ケア等高齢者施策」について説明を受けた。特に網走市が実施している地域住民やボランティアと連携した主な介護予防事業として、高齢者ふれあいの家、いきいき教室、らくらく健康トレーニングについて事業の目的や経緯、実績等詳細な説明を受けた。

【視察効果及び西予市での応用】

1. 今後、日本国全体の人口減少が進む中、「交流・移住・定住」施策の充実は西予市にとってますます重要となり、「就職、出会い、結婚、出産、子育て、教育」といった連続したトータルな施策展開が必要と思うが、そのメニューのひとつとして空き家活用も含め、西予市ならではの「移住体験事業」も考慮すべきと考える。
2. 四国西予ジオパーク推進のためにも、西予市の自然景観の保全や地域の環境美化への取り組みは重要となる。現行の西予市環境委員の活用や生涯を通じた環境学習など、市民一人ひとりが、“私たちが住んでいる西予市を汚さない、自ら率先してまちをきれいにする”という意識の変化を促すような施策・事業を実施すべきと考える。
3. 今後の介護予防、高齢者対策においては、特に網走市のようなボランティアの育成や地域住民を主体とした自立支援につながる活動の実施が重要であり、西予市においても急務である。また、網走市は高齢者ふれあいの家、いきいき教室等早くから様々な地域支援事業に取り組み一定の成果を上げているが、西予市においても介護保険制度改正に伴う総合事業への移行を実施する中で、多様なサービスを創出し、より良い地域包括ケアシステムを構築していくべきと考える。

平成 27 年 9 月 18 日

厚生常任委員会
委員長 沖野 健三



中標津町での研修風景



斜里町での研修風景



網走市での研修風景